

鷹栖町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

鷹栖町は、上川盆地の西北部に位置し、東西南を旭川市に、北は和寒町に隣接しており、面積139.42km²、人口6,572人(令和2年国勢調査)の農業が基幹産業の地域である。

平成元年の道北バス路線一部廃止に伴い代替バスとして運行開始した町営バス(循環線、知遠別線2路線)は、中央・北斗・北成地区住民の通勤、通学、買い物、通院等の交通手段として利用されてきた。

運行当初は循環線が年間19,838人、知遠別線が6,230人の乗車人口があったが、高齢化の進行や生活形態の変化から利用者は減少傾向にあり、平成25年10月からは知遠別線のみ完全予約制運行に変更し、更に2路線ともバス路線上でのフリー乗降を可能にしてきたが、利用者数は伸びていなかった。そのため、地域間幹線系統との接続を考慮し、住民の利便性が向上するよう新たに中央・北成線、北斗・知遠別線の2路線で、自宅付近及び運行区域内の公共施設前で乗降できる事前予約型のデマンド運行体制として平成28年10月から運行を開始した。

中央・北斗・北成地区住民にとって町営バスは、地域間幹線系統の道北バスに接続するフィーダー系統として重要な交通ネットワークを形成しており、その維持・確保は必要不可欠である。

生活交通確保維持改善計画の目標

年間利用者数目標 4,800人

令和3年度事業概要

○中央・北成線(プラザクロス10～鷹栖町～プラザクロス10)【車両減価償却費等国庫補助】

○北斗・知遠別線(プラザクロス10～鷹栖町～プラザクロス10)

・予約制デマンド方式で月曜～土曜は1日10便、日曜祝祭日及び年末年始(12月30日、31日、1月2日、3日)は1日8便で運行
1月1日は全便運休 ・運賃は大人200円、障がい者等100円、18歳以下無料

○利用状況や利用者の希望によって、令和3年10月に一部ダイヤ改正を実施

地域公共交通の現況

- ・道北バス(株)(町内5路線)
- ・タクシー会社1社
- ・スクールバス

協議会開催状況

令和3年6月23日

第1回鷹栖町地域公共交通会議

(主な協議事項)

鷹栖町地域内フィダー系統確保維持計画の承認

令和4年1月18日

第2回鷹栖町地域公共交通会議(書面会議)

(主な協議事項)

地域公共交通確保維持事業・事業評価の承認

令和3年度事業の実施状況

- ・町営バスの予約専用番号が町民カレンダーに記載されていることを確認した。
- ・老人会の会合等に参加し、平成30年4月より変更した予約受付可能時間を中心に説明することで、乗車方法の理解度を深めることができた。
- ・利用状況、利用者からの要望に基づき、令和3年10月からダイヤの改正を行い、利便性を高めた。
- ・ダイヤ改正に伴い、より広い範囲での広報のため、紙面での紹介を行った。
- ・車内消毒と換気を徹底し、乗客にも手の消毒をお願いするなど、感染防止対策を講じての運行をした。

運行区域・路線図

中央・北成線

北斗・知遠別線

基本発着地点

① 2019国体の発着予定時刻に合わせて運行予約ができます

② 路線は予約状況に応じて設定します

③ 目的地は1箇所のみ

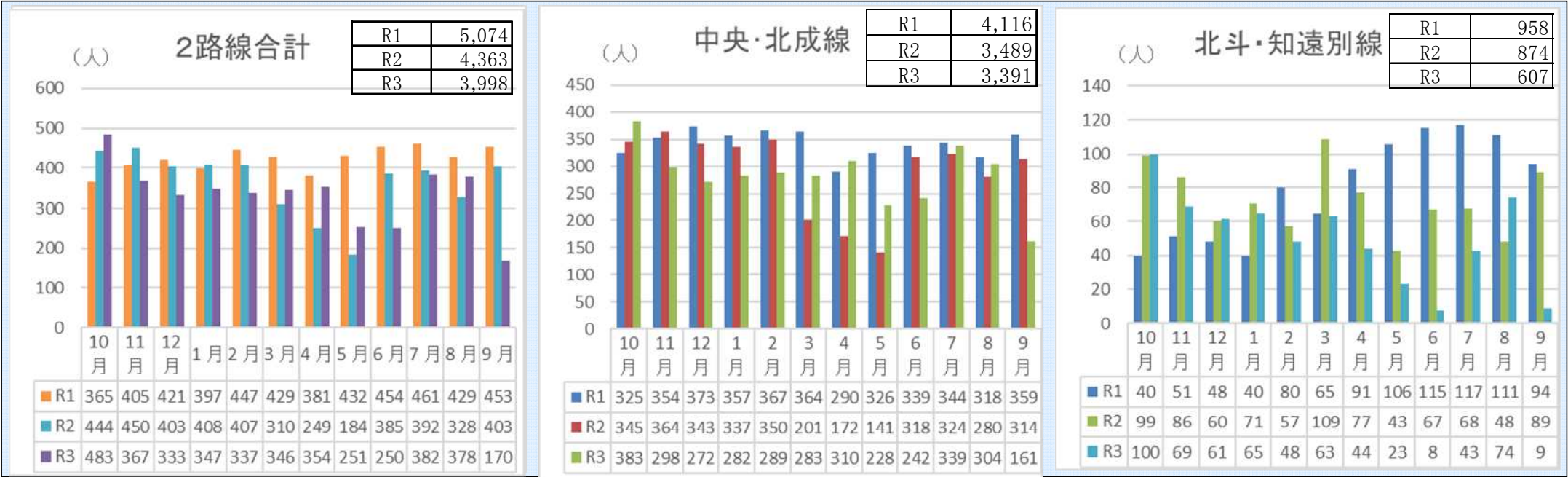
- ・自宅等(公道上で乗換)
- ・サンホールはびねす
- ・役場
- ・たかすメロディーホール
- ・総合体育館
- ・総合スポーツ公園
- ・各地区住民センター(北野地区を除く)
- ・豊橋小学校
- ・豊橋中学校
- ・豊橋保育園(子育て支援センターを含む)
- ・中央基地
- ・北野基地
- ・丸山基地
- ・高瀬物産市場
- ・四幸の里
- ・丸山パークゴルフ場
- ・バレットヒルズ

0.0 0.5 1.0 1.5 2.0 km

1:50000

「この地図の作成に当たっては、国土地理院の地図データを用いて、地図データ作成のための地図データ(2019年1月1日現在の地図)を参照したものである。(国土地理院 平成30年 第3011号)」

3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

今年度の利用者の減少については、一概にコロナが原因と考えるが、今後に向け、利用者の更なる高齢化や免許返納による公共バスの必要性の高まり、また一方で、利用地域の人口の減少を視野に入れた対策が必要だと考えている。

地道な働きかけにより次年度以降、老人会等の活動で町営バスを活用したいという意向も複数の老人会で確認できている。

今後も利用者のニーズを把握し、利用方法の周知をチラシやホームページで実施していくとともに、利用実績を引続き分析し、実態に沿った運行内容を検討していく。

6) 目標・効果達成状況

デマンドバス運行5年目となり、乗車方法も定着してきている。

今年度は昨年度に引き続き、コロナウイルスの影響が大きく、年間利用者は、目標4,800人に対し、実績3,998人となった。車内消毒と換気を徹底し、乗客にも手の消毒をお願いするなど、感染防止対策を講じての運行をしている。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標を達成することができなかったことはやむを得ない面があるものの、北斗・知遠別線においては、このままの利用水準では補助対象外となってしまう可能性もあるため、利用者ニーズのくみ上げを行い、更なる利用促進の取組を行っていただくとともに、利用者ニーズに合わせた運行形態の検討も必要である。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。
- ・今後も継続的に維持するためにも、地域公共交通計画を策定することを強く期待する。